

「持続可能」な自然 未来に

環境悪化解決策は

渡辺豊博氏に聞く

富士山の世界文化遺産登録に向け、国際記念物遺跡会議（イコモス）による現地調査が近く実施される。文化庁や地元自治体は受け入れ準備に追われているが、ごみ問題や登山者増加に伴う環境悪化など大きな問題が残っている。環境NPO法人富士山クラブの元事務局長で、自然や地域の再生を目指すNPO法人グラウンドワーク三島（三島市）専務理事の渡辺豊博氏（62）に問題解決の道筋を聞いた。

【聞き手・野島康祐、写真も】

一元管理しかない

富士山庁の設立を

——もうすべいコモスの調査団が来ますが、富士山はかなり傷んだままですね。

◆「持続可能」な富士山の自然を未来に残すためには、一元管理するしかない。米ヨセミテ国立公園やニュージールランドのトンガリロ国立公園がいい例です。ヨセミテは世界自然遺産、トンガリロは自然・文化両方で登録された複合遺産で、世界中から観光客が集まります。

——富士山にも一元管理は必要ですか？

◆もちろんです。富士山とその周辺の「管理者」が多すぎることを模回収がなかなか進まない。ほかにも、静岡県内では放置された倒木の回収が進まず、再生できない森が増えています。一元管理できないと、登録後にも大きな問題が生じます。富士山のある自然美を求めて世界中から50万〜60万人ぐらい来るとは言い難いですが、

——お金はどうしま

ともに国が一元管理して、入山料を取ったり入山者数を絞るなどの規制をかけ、あの類いまれな自然美を残そうと努力しています。

——富士山にも一元管理は必要ですか？

◆もちろんです。富士山とその周辺の「管理者」が多すぎることを模回収がなかなか進まない。ほかにも、静岡県内では放置された倒木の回収が進まず、再生できない森が増えています。一元管理できないと、登録後にも大きな問題が生じます。富士山のある自然美を求めて世界中から50万〜60万人ぐらい来るとは言い難いですが、

——お金はどうしま

世界遺産登録を目指すという事は「私たち、類いまれな自然美を次世代に残す」という覚悟の証を示すことでもある。ヨセミテやトンガリロを見て、そう思います。その覚悟をイコモスに感じてもらえるかどうか。それが登録の行方を左右するでしょう。



インタビューに応えるNPO法人グラウンドワーク三島専務理事、渡辺豊博さん